

Contents

- 1 Forward
Ki-young SHIN

Special Section: The COVID-19 Pandemic and Gender

Research Article

- 5 Impact of the COVID-19 pandemic on face-to-face sales of Japanese life insurance companies
Kaoru KANAI
- 25 COVID-19 pandemic as a crisis of global governance and feminist knowledge
Hisako MOTOYAMA

Research Note

- 47 A Review of Kara Walker's *Fons Americanus* from the Standpoint of the UK's Black Lives Matter Movement during the COVID-19 Pandemic
Naoko UCHIYAMA
- 57 Impact of COVID-19 on gender-related measures: Reporting the current state of Germany's Gender Equality Strategy
Atsuko SANO
- 67 COVID-19 and "Home": From a Feminist Geographical Perspective
Minako KURAMITSU

Articles

- 95 Self-Representation as "Being *X-jendā*": Narratives Focusing on Coming Out to Parents and Partners
Kyoko TAKEUCHI
- 113 The *Fujoshi*'s "Fantasy Trouble": Body, Desire, and Imagining in the Ontology of Boys' Love Fantasy
Wei-Jung CHANG
- 131 How women with developmental disabilities are seen by their supporters: Persisting gender bias and its propagation by supporters
Rina MUKAI
- 153 The Constitution of Problematization of Youth Sex: An Analysis of Physical and Health Education Textbooks
Kazunori SORIHASHI
- 171 Trans as Postfeminism?: Critically Reading Transphobic Discourse in Japan
Kazuki FUJITAKA
- 189 Book Reviews
- 224 Editor's Postscript
- 226 Editorial Guidelines

編集後記

『ジェンダー研究』24号が完成した。今号は「パンデミックとジェンダー」を特集テーマとし、研究論文、研究ノート、現場・事例報告、そして資料紹介の枠を設けて公募にて論文を募った。結果、研究論文2本、研究ノート3本、現場・事例報告3本が厳格な審査を経て掲載となっている。この未曾有の危機の時代に生きていること、その危機にジェンダー研究がなしてきたこと、そしてジェンダー研究だからこそ成しうることが本特集には詰め込まれているように思う。また編集長のコンセプトをもとに、和田さん主導でエッジの効いた表紙作りも進行した。いつものことながら、特集コンセプトをこのような素敵な表紙として具現化して下さるデザイナーの塩飽さんに感謝申し上げたい。

今号の投稿論文数は最も多かった。よって、携わっていただいた査読者の数もこれまでで一番多く41名の学内外の研究者にご協力いただいている。ここでお一人お一人のお名前を挙げることはできないが、貴重なお時間を割いての先生方のご尽力に心より御礼申し上げます。掲載された論文5本はこうした学内外の査読者による厳格な審査を経て掲載可となった論文で、力作揃いである。残念ながら掲載がかなわなかった論文もあるが、査読コメント、またそれへの応答から私自身が多くを学ばせていただいた。

また、上述のように、今号はこれまでで最も多い数の投稿が寄せられたため、特集および投稿論文すべてを扱うことは私の能力の限界を超えていると判断したことから、仙波さんにヘルプを求め、途中から特集原稿の一部の作業を分担いただいた。忙しい中、快く引き受けてくれた仙波さんに感謝している。

ところでこの編集後記はいつも、すべての原稿をチェックし終えたのち、入稿直前に書く。今号もここまでこぎつけることが出来たのは、上述した方々や編集長、編集委員会委員の先生方、編集スタッフに加え、滝さん(会計)、梅田さん(送付先の管理)、稲垣さん(ポスター等広報)のおかげでもある。IGSスタッフの皆さんのご協力に感謝している。そして、特集、一般投稿論文の校閲を担当して下さった西澤千典さん、いつも様々な要望に応じて下さる能登印刷・遠藤さんにも御礼申し上げます。

平野恵子

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任講師)

『ジェンダー研究』24号は、私がこの編集事務局のスタッフとしてかかわるようになって4回の発行である。今号では、「パンデミックとジェンダー」という特集が生まれ、論文の他に研究ノートや現場・事例報告論文も公募することとなった。通常よりも多くの論文が集まり、編集事務局の論文担当の平野さんの負担が増えたため、今号では私も通常の書評編集に加え、はじめて特集の研究ノート、および、現場・事例報告論文の編集も担当することになった。自分が担当した研究ノート3本、現場・事例報告論文4本はどれも興味深く、コロ

ナ禍、何が起きているのかを考えさせられるものばかりだった。また、ジェンダー関連の研究に取り組む人に様々な示唆を与えそうな11本の最新の書籍の書評も紹介できた。

研究ノート、現場・事例報告論文はその分野を専門とする教員や研究者に閲読審査を依頼し、忙しい中、審査を快諾していただいたことに心から御礼申し上げます。また、書評用の書籍選定や評者候補の方々の紹介等では、『ジェンダー研究』編集委員会の委員をはじめ、お茶の水女子大学の学内外の様々な分野を専門とされている教員や研究者にも支援を賜った。こうした多くの方の協力に心から感謝している。またお忙しい中、書評の執筆を快く承諾してくださった具裕珍さん、林美子さん、児玉谷レミさん、小勝禮子さん、小川真理子さん、大野恵理さん、佐藤智美さん、徐阿貴さん、高橋由美さん、田間泰子さん、山根純佳さん、(あいうえお順)にも御礼申しあげたい。

『ジェンダー研究』24号も質の高い論文や書評で構成され、充実した号になったと自負している。今号も多くの方にお読みいただき、読者の研究の中で何かの形で活かされることを願ってやまない。そして発行に向けて共に作業をすすめた申キヨン編集委員長、編集事務局の平野恵子さん、校閲の和田容子さんと西澤千典さんにも感謝を述べたい。

仙波由加里

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任講師)

今号の特集「パンデミックとジェンダー」に相応しい表紙デザインとはどんなものか? 編集実務会議では議論を重ね、次のようなコンセプトに至りました。「パンデミックを契機に、私たちは岐路に立っている。このあと世界は、誰もがケアされ生きる権利が尊重される包摂の世界になるのか、それとは真逆の悲劇的な結末を迎えるのか。安易に絶望に陥らず、いつか一筋の光明を見出す希望を携えて、ジェンダーの視点から世界を研究する——というイメージにしたい」。この要望をデザイナーの塩飽晴海さんに伝え、出来上がったのが今号の表紙です。鮮烈でありながら美しく洗練されたデザインにしてくださった塩飽さんに、お礼を申し上げます。

編集実務スタッフとして進行補佐と書評校閲を担当しました。スタッフの一員としていつも快く迎えて下さる申編集長、編集局の平野さん、仙波さんに、心から感謝申し上げます。

和田容子

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 アカデミック・アシスタント)

『ジェンダー研究』編集方針

- 1 『ジェンダー研究』（以下、本誌）は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
- 2 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
- 3 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
- 4 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
- 5 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
- 6 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

『ジェンダー研究』投稿規定

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
 - 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する、原則として修士号取得相当以上とする。
 - 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けられないなど、しかるべき措置をとる。
 - 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
 - 5 投稿論文は、
 - ・日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて20000字以内。
 - ・英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて8500ワード以内。
 - ・なお、1図表500字相当、1ページを要する場合は1000字相当とする。
 - ・挿図の場合は、1ページあたり1000字、刷り上がり20頁内に入ることを原則に、およそ20点までとして全体を構成する。
 - ・挿図に用いる図版の掲載許可については、投稿者が自らの責任において然るべき手続きをとる。なお許可に要する費用は、投稿者負担とする。
- *定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。

- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
 - 6-1 表紙。論文タイトル（副題も含む）と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。（タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。）
 - 6-2 日本語要旨。400字以内。
 - 6-3 英語要旨。200ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
 - 6-4 キーワード。日本語・英語ともに5語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。
なお、執筆者を特定するようないかなる情報（謝辞、科研番号）も記載してはいけない。
- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。
日本語投稿フォーム <https://form.jotform.me/72482244933459>
英語投稿フォーム <https://form.jotform.me/72488720633461>
- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める＜『ジェンダー研究』執筆要項＞に従う。英語の投稿論文は *Style Sheet for Journal of Gender Studies* とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則2回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げの場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

- 改訂 1. 2017年10月27日制定
2. 2021年5月14日改訂

『ジェンダー研究』執筆要綱

<http://www2.igs.ocha.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/yoko2019.pdf>

お茶の水女子大学ジェンダー研究所

『ジェンダー研究』 第24号

編集委員会

編集委員長

申 琪榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院文化科学系
水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系
石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
大橋 史恵 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
脇田 彩 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
板井 広明 お茶の水女子大学ジェンダー研究所 (2021年3月まで)

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部
金井 郁 埼玉大学経済学部
北原 恵 大阪大学文学研究科
板井 広明 専修大学経済学部 (2021年4月から)
Jan Bardsley ノースカロライナ大学
Karen Ann Shire デューズブルグ・エッセン大学

編集事務局

平野 恵子 (特集、研究論文編集) お茶の水女子大学ジェンダー研究所
仙波 由加里 (特集、書評編集) お茶の水女子大学ジェンダー研究所
和田 容子 (校閲、マネージメント) お茶の水女子大学ジェンダー研究所

2021年7月31日 発行
編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL: 03-5978-5846
igsoffice@cc.ocha.ac.jp
<http://www2.igs.ocha.ac.jp/>
表紙・目次デザイン 塩飽 晴海
印刷・製本 能登印刷株式会社

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Journal of Gender Studies No. 24

Editorial Board

Editor-in-Chief

SHIN, Ki-young

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Editorial Board Members

AMANO, Chika

Humanities Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

MIZUNO, Isao

Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

MORI, Yoshihito

Natural Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

ISHIMARU, Keiichiro

Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

OHASHI, Fumie

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

KURAMITSU, Minako

Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

WAKITA Aya

Human Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University

ITAI, Hiroaki

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

(Until February, 2021)

MIURA, Mari

Faculty of Law, Sophia University

KANAI, Kaoru

Faculty of Economics, Saitama University

KITAHARA Megumi

Graduate School of Letters, Osaka University

ITAI, Hiroaki

Faculty of Economics, Sensyu University

(Since April 2021)

BARDSLEY, Jan

University of North Carolina

SHIRE, Karen Ann

University of Duisburg-Essen

Associate Editors

HIRANO, Keiko (Special Section, Articles) Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

SEMBA, Yukari (Special Section, Book Reviews) Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Managing Editor, Proof Reader

WADA, Yoko Institute for Gender Studies, Ochanomizu University

Date of Issue:	July 31st 2021
Publisher:	Institute for Gender Studies, Ochanomizu University 2-1-1 Ohtsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610, Japan Tel : 81-(3)-5978-5846 Email: igsoffice@cc.ocha.ac.jp URL: http://www2.igs.ocha.ac.jp/en/
Cover Design:	SHIWAKU, Harumi
Printing Office and Bookbinder:	Noto Printing Corporation